

感震ブレーカー作動後の復旧方法

※本市において最も普及しているYAMORI(リンテック21製)を例として
写真を掲載しています。



茅ヶ崎市 都市政策課



地震発生時

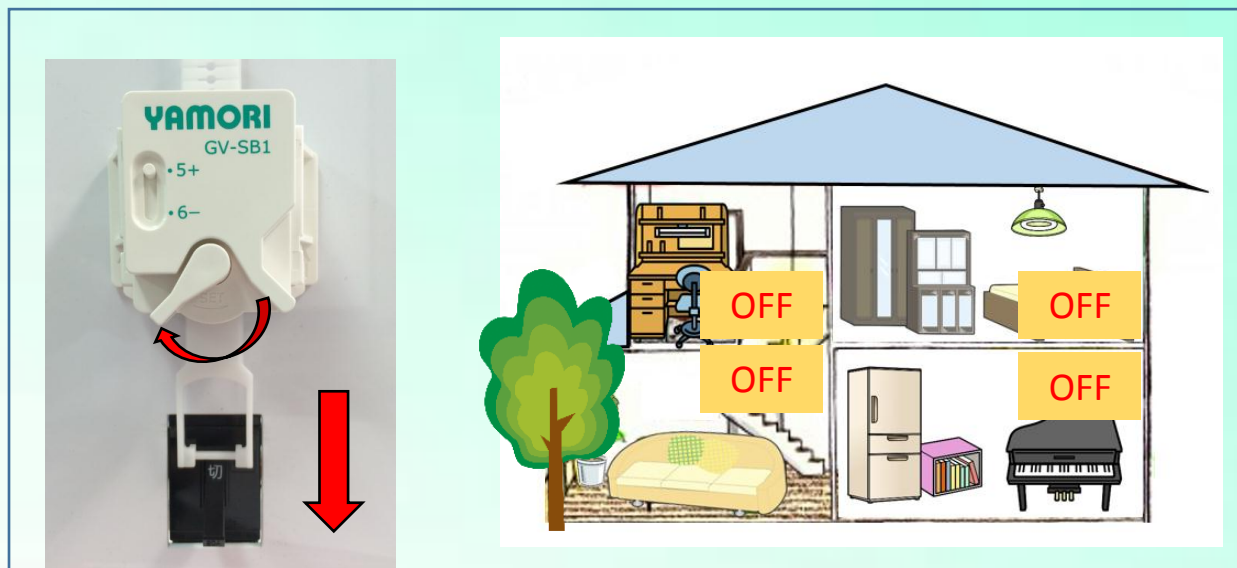
地震発生！

＜感震ブレーカーが自動的に作動＞

感震ブレーカーは、震度5強以上の地震で作動します。



全部屋の電気がOFF↓



漏電ブレーカーがOFFの状態↓

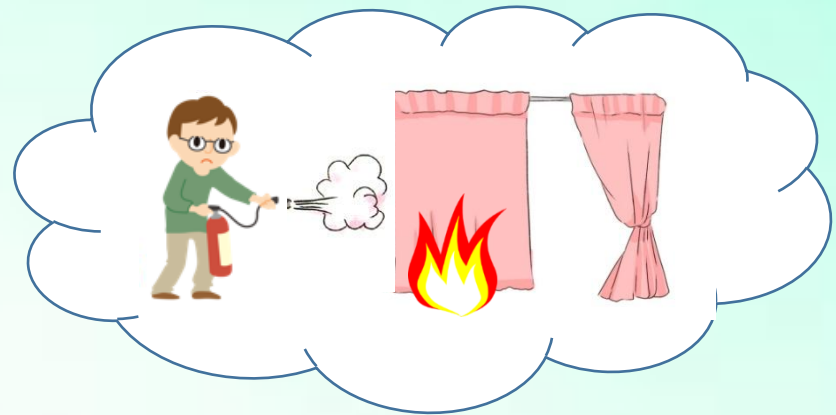
- * 感震ブレーカーとはヤモリを示しています。
- * そのヤモリを漏電ブレーカーに設置したケースで説明します。

感震ブレーカー作動後の復旧方法（地震発生後1）

1. 準備

いざという時のために、

- ①本作業は、日中に二人以上で行って下さい。
- ②作業前にガス漏れが発生していないことや、電気製品・配線の安全確認を行って下さい。
- ③備え付けの消火器をいつでも使えるように手元に準備して下さい。
- ④消防への通報が可能なことを確認した上で作業して下さい。



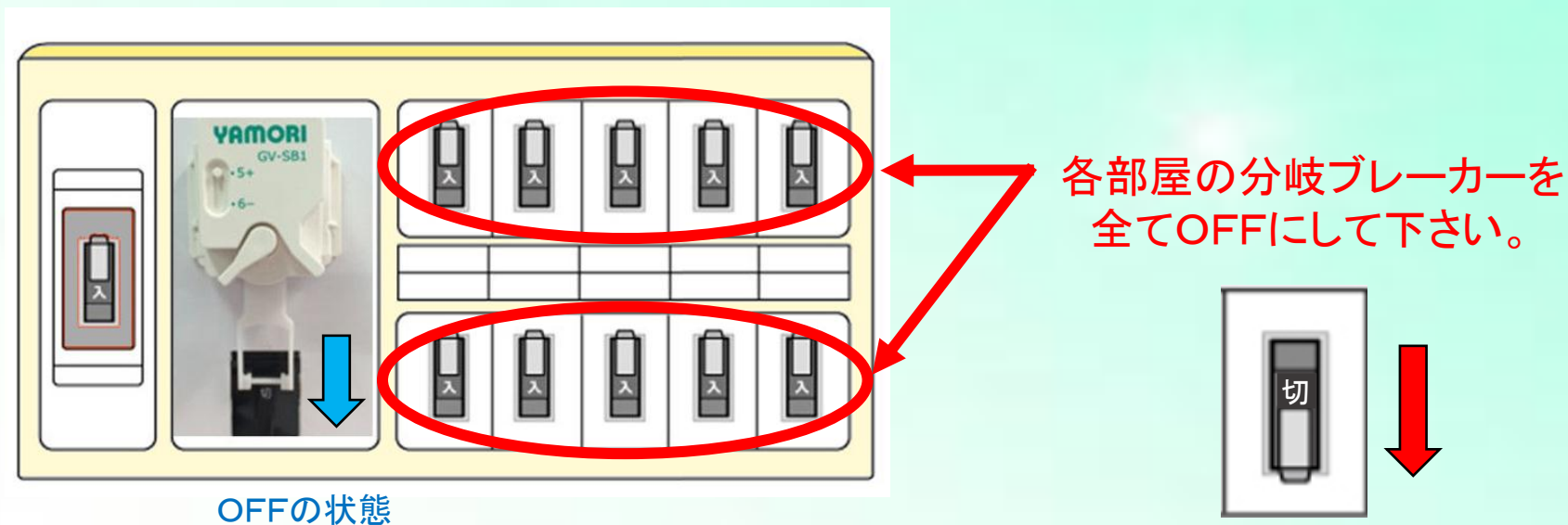
感震ブレーカー作動後の復旧方法(地震発生後2)

2. まず、分岐ブレーカー(*安全ブレーカー)を**全てOFF**して下さい

*:以下、分岐ブレーカーとして統一表示します

全部屋の分岐ブレーカーをONにしたまま漏電ブレーカーをONにすると全部屋に通電してしまい、地震で散乱している部屋で火災が生じてしまう可能性があるため、一旦、全部屋の分岐ブレーカーをOFFにしておく必要があります。

アンペアブレーカー 漏電ブレーカー 分岐ブレーカー(安全ブレーカー)



感震ブレーカーが作動して漏電ブレーカーは**OFFの状態**になっていますが、**分岐ブレーカーはONのままになっています。**

感震ブレーカー作動後の復旧方法(地震発生後3)

3. 各部屋を**確認**して下さい

- ①家具が転倒していませんか？
→電気機器用コードが無いか確認して下さい。
もし有ったら、コンセントからコードを引き抜いておいて下さい。
- ②電気機器用コードが家具の下敷きになって断線していませんか？
→もし有ったら、コンセントからコードを引き抜いておいて下さい。
その後、使わないようにコードに目印をつけておいて下さい。
- ③発火の可能性がある電気機器に可燃物が落下していませんか？
→もし有ったら、可燃物を取り除いて下さい。



チェックをしないとこんな事に



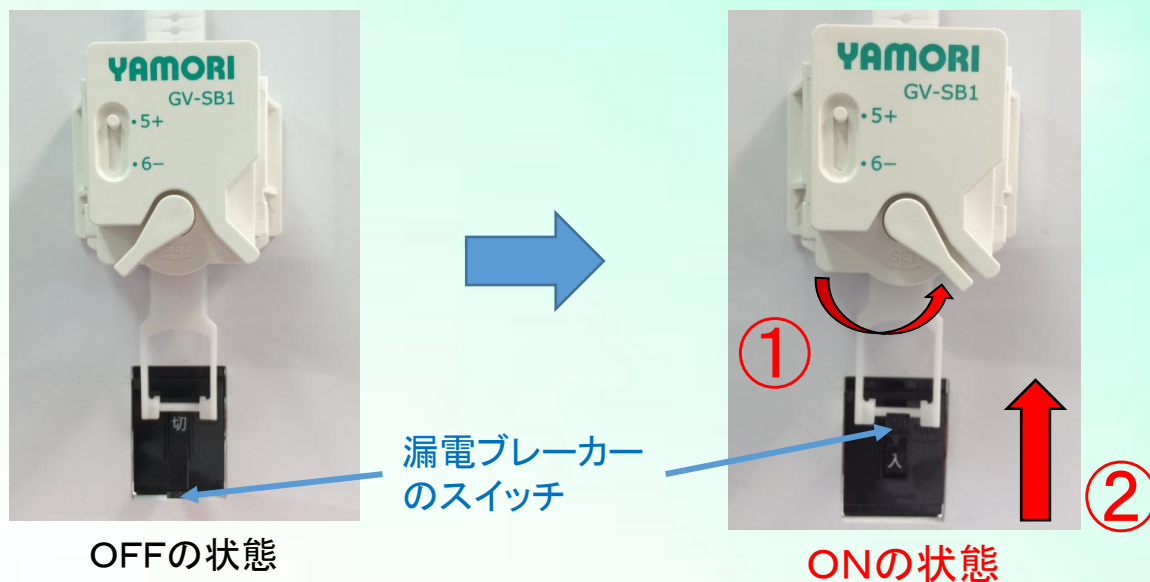
感震ブレーカー作動後の復旧方法(地震発生後4)

4. 感震ブレーカーをONの状態に戻して下さい※

感震ブレーカーが地震で作動したことにより漏電ブレーカーはOFFの状態になっていますので、下記の①と②の作業を行って下さい。

①感震ブレーカーの左に向いているレバーを右側に動かし、カチッと音がする所まで動かして下さい。
右側で固定状態になった段階で感震ブレーカーがセットされたこととなります。

②漏電ブレーカーのスイッチがOFFの状態になったままになっていますのでONの状態にして下さい。



※ YAMORIを例として示しています。感震ブレーカーをONにする方法は、各機器の説明書をご確認下さい。

感震ブレーカー作動後の復旧方法(地震発生後5)

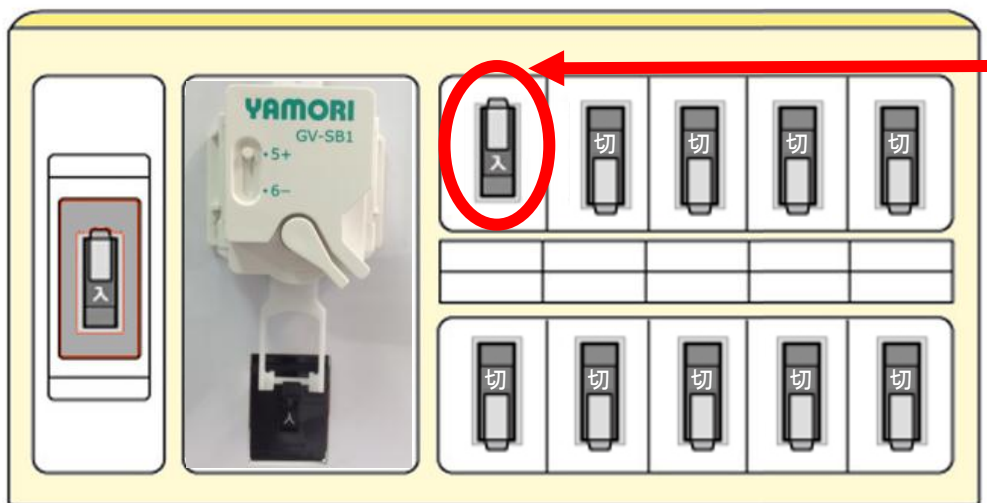
5. 分岐ブレーカーを1つずつ確認しながらONにして下さい

①分岐ブレーカーに各部屋の名前が書かれている場合はその部屋を確認しながらスイッチをONにして下さい。

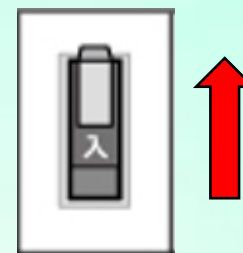
②分岐ブレーカーに各部屋の名前が書かれていない場合はどの部屋のスイッチか分からないので、1つのスイッチをONにしたら各部屋を回り屋根裏も含み異変が無いかを確認して下さい。1つずつ全てのスイッチに時間をかけて念入りに異変が無いかを確認して下さい。

参考:スイッチと部屋との配線が分かり次第、各スイッチに部屋名を記入しておくことをお勧めします。

アンペアブレーカー 漏電ブレーカー 分岐ブレーカー(安全ブレーカー)



部屋単位に分岐ブレーカーをONにして下さい。



<各部屋単位に確認して下さい>
異変(臭・煙・火花等)は有りませんか?

感震ブレーカー作動後の復旧方法(地震発生後5)

二人以上で確認して下さい

アンペアブレーカー 漏電ブレーカー 分岐ブレーカー(安全ブレーカー)

